

TECHNICAL GUIDE: ARCSERVE BACKUP R16.5

Arcserve® Backup r16.5

インストールガイド

第四部 基本操作リストア編

2013年 3月

REV: 1.5

arcserve®

4. 基本操作（リストア）

この章では、リストア ジョブの作成から実行結果の確認までを、ファイルの基本的なリストア操作手順に沿って説明します。なおこの章で説明する Arcserve Backup のリストア操作手順は、ファイル システム デバイス、データ デデュプリケーション デバイス、テープ装置で共通の手順です。

4-1 リストアの準備

4-1-1 リストア マネージャの起動

リストア マネージャの起動は、以下の手順で行います。

[リストア マネージャの起動]

1. Arcserve Backup ホーム画面、または画面左のナビゲーションバーから[クイックスタート] - [リストア]をクリックします。



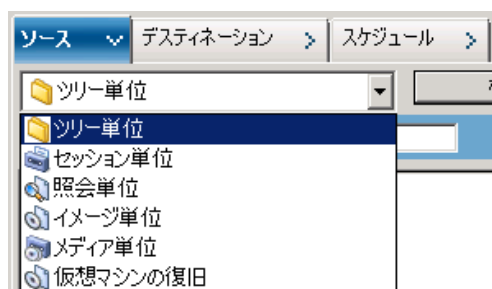
4-2 リストアの基本操作

4-2-1 リストア手順

ここでは、リストア ジョブの作成から実行までの基本的な手順を説明します。

[リストアの基本手順]

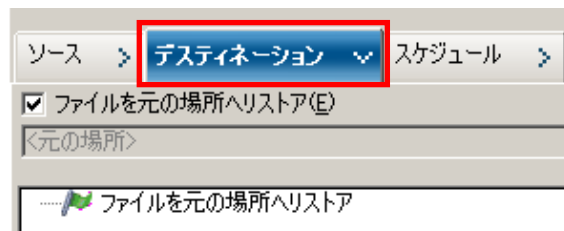
1. [リストア マネージャ]画面の[ソース]タブで、リストア方式を選択します。



2. リストアするソースを選択します。右の図ではツリー単位のリストア方式から、ソースを選択しています。



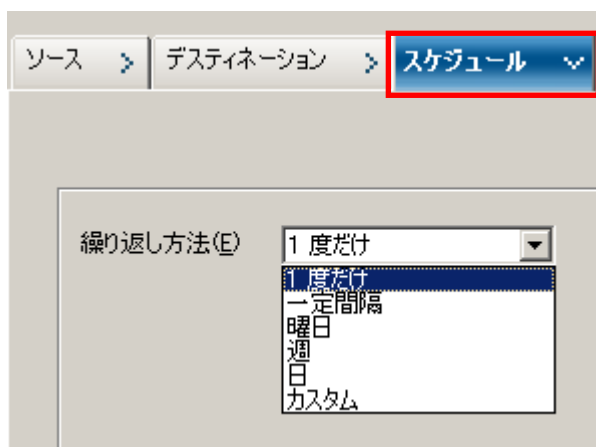
3. [デスティネーション]タブで、リストア先を指定します。



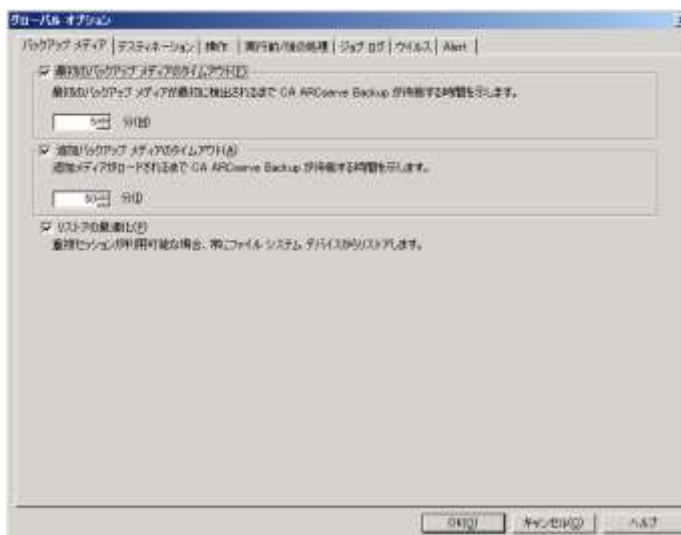
[ポイント]

デフォルトでは、[ファイルを元の場所へリストア]が選択されています。任意の場所にリストアする場合は、[ファイルを元の場所へリストア]設定を解除し、マシン、フォルダ、ファイルのツリーから任意のフォルダを選択します。リストア先に指定したフォルダが存在しない場合、リストア実行時に対象フォルダが自動的に作成されます。(4-3-2 リストア オプション (ディレクトリ構造) 参照)

4. [スケジュール]タブで、[繰り返し方法]を選択します。通常はデフォルトの「一度だけ」から変更の必要はありません。



5. 必要な場合は、[リストア マネージャ]画面から[オプション]をクリックして、オプションを指定します。



6. 設定が完了したら、[サブミット]ボタンをクリックします。



4-2-2 リストア ジョブの作成

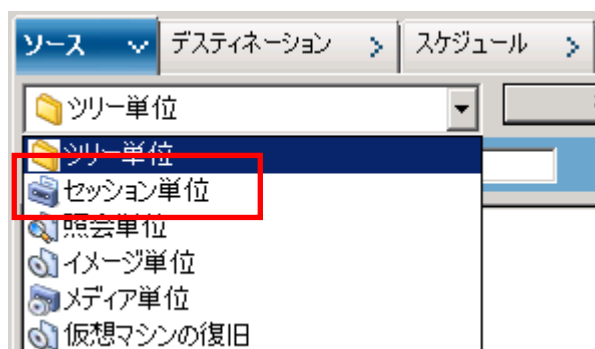
特定のセッションからリストアを行う場合は、以下の手順に沿ってリストア ジョブを作成します。

[セッション単位のリストア ジョブの作成例]

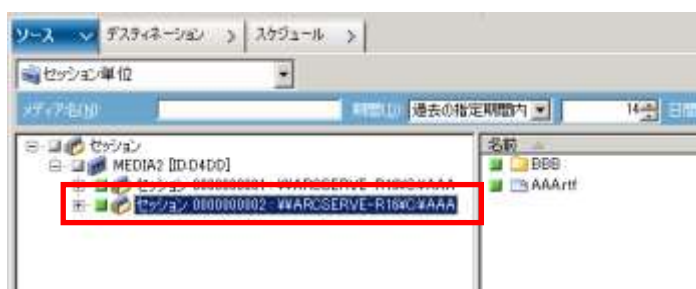
3-2-3 バックアップ ジョブの作成の「バックアップの例」でバックアップした C:¥AAA フォルダを、同じ場所にリストアします。メディアには同一ソースが2回分（セッション0000000001、セッション0000000002）バックアップされており、ここでは、セッション 0000000002 をリストア ソースとして、1 度だけ即実行します。リストア結果を確認するために、リストアするフォルダがすでに存在する場合には、あらかじめ削除しておきます。ここでは、C:¥AAA フォルダを削除しておきます。

[リストア ジョブの作成手順]

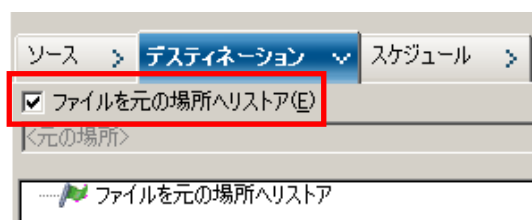
1. [リストア マネージャ] - [ソース]タブで、リストア方式に[セッション単位]を選択します。



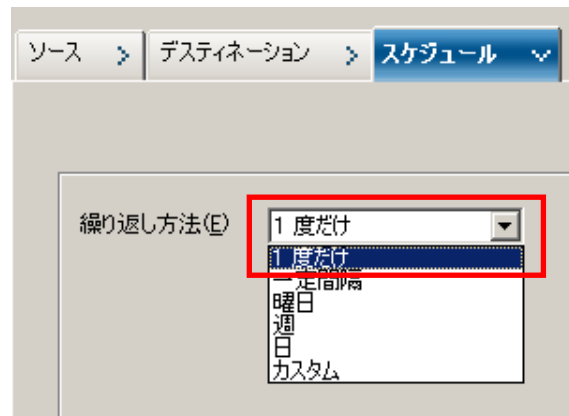
2. ここでは、該当するメディアから「セッション 0000000002」を選択します。



3. [デスティネーション]タブで、[ファイルを元の場所へリストア]が選択されていることを確認します。



4. [スケジュール]タブで、[繰り返し方法]に
[1 度だけ]が選択されていることを確認しま
す。



5. ここでは、オプション設定を変更せず、デフォルト設定のまま使用します。
6. 設定が完了したら、[サブミット]ボタンをクリックします。



以上でリストア ジョブの作成は完了です。ジョブをサブミットするために、必ず次章「ジョブのサブミットと保存」を参照して下さい。

4-2-3 ジョブのサブミットと保存

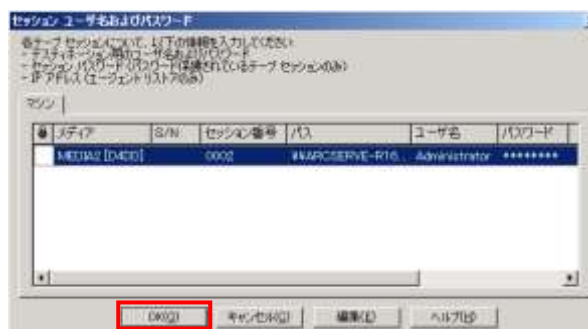
作成したジョブをサブミットします。

[ジョブのサブミット手順]

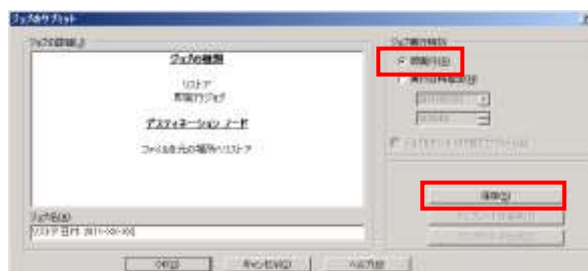
1. [リストア メディア]画面で、リストアするメディアを確認し、[OK]ボタンをクリックします。



2. [セッション ユーザ名およびパスワード]画面で、ユーザ名とパスワードが入力されていることを確認します。必要に応じてセキュリティ設定を修正するには[編集]ボタンをクリックします。修正/確認完了後[OK]をクリックします。



3. [ジョブのサブミット]画面が表示されます。ここでは[即実行]を選択します。



[ポイント]

[実行日時指定]を選択すると、ジョブ実行日時を指定できます。

4. ジョブをスクリプト ファイルとして保存する場合は、[保存]ボタンをクリックします。

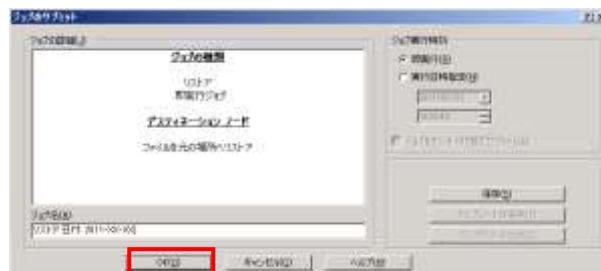
5. [保存]ボタンをクリックすると、[ジョブ スクリプトの保存]画面が表示されます。
6. スクリプト ファイルの保存場所とファイル名を指定し、[保存]ボタンをクリックします。



[ポイント]

保存したスクリプト ファイル（拡張子 .asx）を読み込むには、リストア マネージャのツールバーより [ファイル] - [開く] - [ジョブ スクリプトを開く] から保存したスクリプトを選択します。

7. [OK]ボタンをクリックし、ジョブをサブミットします。



[ポイント]

リストア方法によっては、[サブミット]ボタンをクリック後に、[セッション ユーザー名およびパスワード]画面が表示されます。また、ツリー単位、セッション単位、照会単位のリストア ジョブは、サブミット後にジョブの修正ができません。ただし、再スケジュールは可能です。

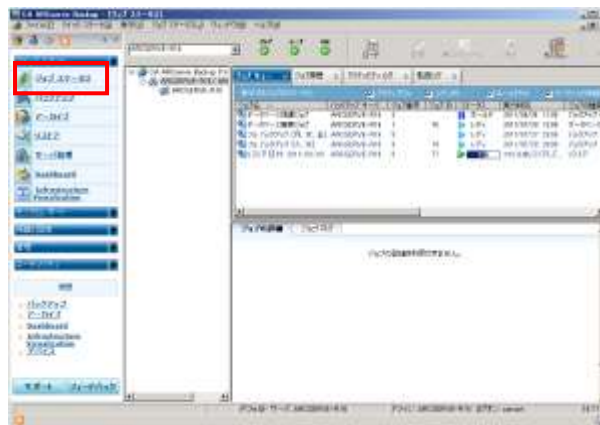
4-2-4 ジョブの確認

サブミットしたジョブの確認は、ジョブ ステータス マネージャで行います。ジョブ ステータス マネージャのジョブ キュー タブでは、サブミットしたジョブの結果が確認できます。アクティビティ ログ タブではジョブの詳細な実行内容を確認することができます。

ジョブ ステータス マネージャの起動と、サブミットされたジョブのステータスを確認するには、以下の手順で行います。

[ジョブ ステータス マネージャの起動]

Arcserve Backup マネージャのホーム画面または、ナビゲーションバーから[ジョブ ステータス]をクリックします。(右図ではナビゲーションバーを示しています)



[ジョブ結果の確認手順]

1. [ジョブ キュー]タブをクリックします。
2. サブミットしたジョブのジョブ ID、ステータス、実行時刻、ジョブの種類、前回の結果などを確認します。正常終了の場合、[前回の結果]が完了と記録されます。

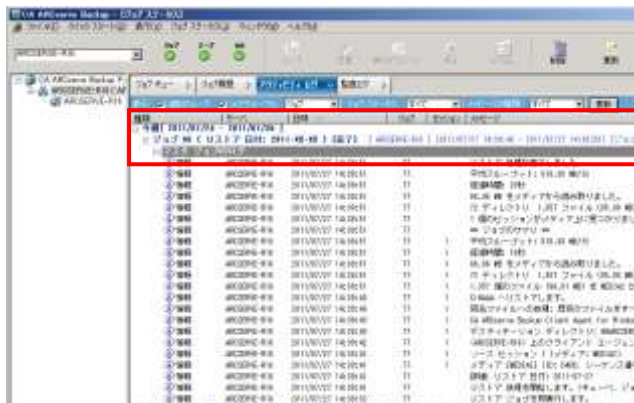
ジョブ名	バックアップセット	ジョブ番号	ジョブID	ステータス	実行時刻	バックアップの種類	前回の結果
データベース保護ジョブ	ARCserve-R16	2		ホールド	2011/08/24 11:00	バックアップ (ロータリング)	
データベース複製ジョブ	ARCserve-R16	1	76	終了	2011/07/28 12:00	データベース複製	完了
バックアップ [カスタム]	ARCserve-R16	7	76	終了	<既実行>	バックアップ	完了
バックアップ [日、ホ、全]	ARCserve-R16	5		終了	2011/07/27 20:00	バックアップ	
バックアップ [日、ホ]	ARCserve-R16	5	74	終了	2011/07/28 20:00	バックアップ	完了
バックアップ 日付: 2011-08-08	ARCserve-R16	6	77	終了	<既実行>	バックアップ	完了

[ポイント]

ジョブのステータスは、[レディ] (実行待ち)→[アクティブ] (実行中)→[終了]と変化します。ステータスが[アクティブ]のジョブをダブルクリックすると、[ジョブ モニタ]画面が表示されます。

[アクティビティ ログの確認手順]

1. ジョブステータス マネージャの[ジョブ キュー]タブから、対象ジョブの[ジョブ ID]を確認します。
[ジョブ ID]とは、ジョブ毎に採番されるシーケンシャルな番号です。
2. [アクティビティ ログ]タブをクリックし、
確認したい[ジョブ ID]を持つログを展開
させます。

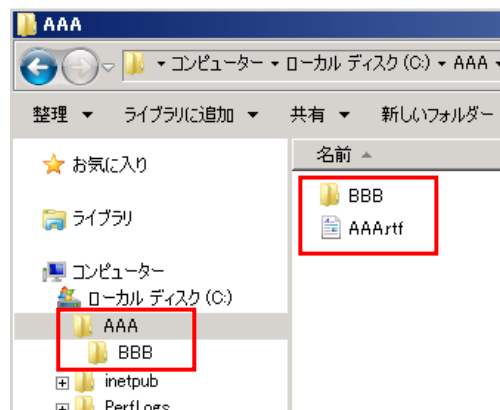


[ポイント]

正常終了の場合は「リストア処理が完了しました」と記録されます。アクティビティ ログでエラーが記録された場合には、その行をダブルクリックするとエラー メッセージに関する情報画面が開きます。

[リストア結果の確認]

リストアされたデータを確認します。事前に削除しておいたフォルダがリストアされ C:\AAA\BBB フォルダなどのサブ フォルダもリストアされています。



■まとめ

ジョブ ステータスが完了になっており、アクティビティ ログにも完了の記録があれば、リストアは正常に処理されています。リストアされたデータを確認します。

4-3 リストア ジョブ設定のポイント

ここでは、リストア ジョブの実行時に設定可能なオプションと、ポイントについて説明します。

4-3-1 ソース タブ (リストア方法)

ソース タブのリストア ソースから、以下の 6 つのリストア方法を選択することができます。

[ツリー単位] でリストア

Arcserve Backup データベースの情報から、バックアップされたリソースがツリーで表示されます。ソース 選択はツリー上から行い、複数回バックアップされたデータは、バージョン履歴から選択することができます。リストア ソースがどのメディアに入っているか分からないが、バックアップしたマシンが分かっている場合に使用します。

[セッション単位] でリストア

Arcserve Backup データベースのセッション情報を、メディア名ごとに表示されます。リストア ソースのメディア名が分かっている場合、セッションを探すのに便利な方法です。

[照会単位] でリストア

Arcserve Backup データベースの情報から、検索パターンを指定してリストア ソースを検索します。リストア対象のファイル名、またはフォルダ名が分かっているが、バックアップしたマシンやメディア名が分からない場合に使用します。

[イメージ単位] でリストア

Image Option を使用してバックアップしたデータをリストアする場合に使用します。ドライブ単位、またはファイル単位のリストアが可能です。

[メディア単位] でリストア

Arcserve Backup データベースにバックアップ メディアの情報が存在しない場合に使用します。メディアと、メディア内の特定セッション (1 回 1 セッションのみ) をソースとして選択します。リストア ジョブにフィルタを設定しない限り、指定セッション内のすべてのデータをリストアします。また、MTF (マイクロソフト テープフォーマット) のメディアからリストアする場合に、この方法を使用します。

[仮想マシンの復旧] でリストア

VMware または Hyper-V の仮想マシンを raw モードまたは混在モードでフル バックアップしたイメージを使ってリストアする場合に使用します。

[仮想マシンの復旧]画面から仮想マシンのホスト名を検索するか、または仮想環境のタイプ (VMware もしくは、Microsoft Hyper-V)を選択し、画面に表示された仮想マシンを選択してリストアを実行します。

[ポイント]

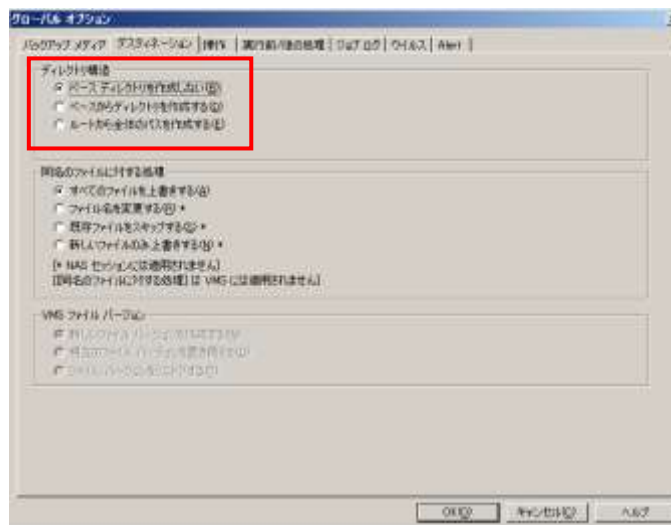
システム状態をリストアする為には[ツリー単位] または[セッション単位]を選択する必要があります。

4-3-2 リストア オプション (ディレクトリ構造)

リストア オプションの、[デスティネーション]タブは、リストア先のディレクトリ構造を指定できます。また、どのファイルを上書き可能にするかを決定できます。

[ディレクトリ構造]

[ディレクトリ構造]では、リストアの際のフォルダ作成方法を指定します。「ベースディレクトリ」とは、ソース パス内で選択されている最初のフォルダのことです。例えば、c:\xyz\file1 と c:\yx\file2 をリストアする場合、file1 と file2 のベースディレクトリは xyz となります。



[ポイント]

[ディレクトリ構造]の指定は、リストア マネージャの[デスティネーション]タブで、[ファイルを元の場所へリストア]の選択を解除すると有効になります。

■ベース ディレクトリを作成しない (デフォルト)

デスティネーション パスにベース ディレクトリは作成されませんが、ソースのベース ディレクトリ下にあるサブ ディレクトリはすべて作成されます。

■ベースからディレクトリを作成する

ベース ディレクトリやサブ ディレクトリを含む全てのディレクトリが作成されます。

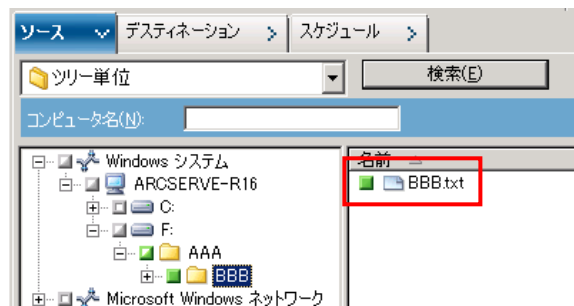
■ルートから全体のパスを作成する

デスティネーション上にソース パス全体が作成されます。デスティネーション上には、ベース ディレクトリへのディレクトリ パスのみが作成され、親ディレクトリのファイルはリストアされません。

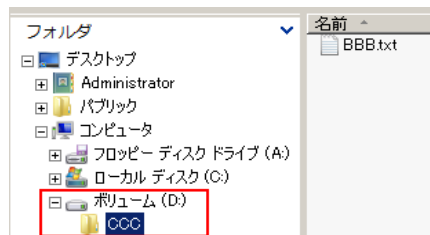
[ディレクトリ構造のリストア例]

リストアの[ソース]タブから

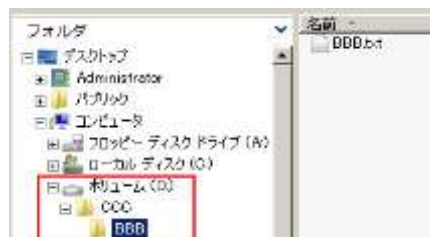
「C:¥AAA¥BBB¥BBB.txt」を選択し、[デスティネーション]タブからリストア先を「¥¥サーバ名 ¥D:¥CCC」と指定した場合、各オプションを指定したリストア結果は、以下のようになります。



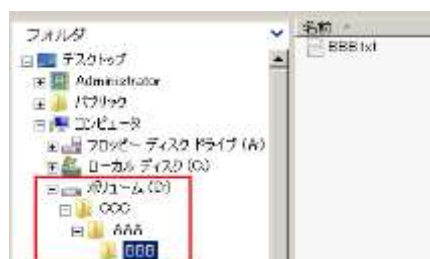
例1: ベース ディレクトリを作成しない



例2: ベースからディレクトリを作成する



例3: ルートから全体のパスを作成する



[同名のファイルに対する処理]

[同名ファイルに対する処理]では、リストア ソースと同名ファイルが、すでにデスティネーション上に存在する場合の処理方法を選択します。各オプションは、以下になります。

すべてのファイルを上書きする (デフォルト)	ファイル名の重複にかかわらず、すべてのソース ファイルをリストアします。同名ファイルはすべて上書きされます。
ファイル名を変更する	ソース ファイルに拡張子を追加して、リストアします。拡張子の最後の1文字は、Arcserve Backup が同名のファイルをいくつ検出するかによって、_0、_1、_2、_3・・・ のように変更されます。
既存ファイルをスキップする	同名ファイルが存在する場合、ソースはリストアされません。
新しいファイルのみ上書きする	デスティネーション上の同名ファイルより、作成/変更日付が新しい場合だけ、ソース ファイルがリストアされます。

4-3-3 メディアのマージ

リストア ジョブを作成する際に、リストア対象のフォルダ/ファイル/セッション等のソース選択は Arcserve Backup データベースに保存されているメディア情報を元に設定します。従ってデータベース上に対象メディアの情報が存在しない場合には、リストア対象の選択ができません。このような場合には、リストア前にマージ ユーティリティを使用し、メディアのセッション情報をデータベースに取り込んでおく必要があります。

マージ ユーティリティの使用方法については、5-4-2「マージ ユーティリティの利用」を参照して下さい。

以下のようなケースでは、Arcserve Backup データベースにメディア情報が存在しない可能性があります。

- ・ 他の Arcserve Backup サーバでバックアップしたメディアを使用する場合
- ・ OS や Arcserve Backup の再インストール後にリストアを行う場合
- ・ データベース初期化により、データベース上のメディア情報が削除された場合
- ・ データベース廃棄ジョブ（5-3-2 Arcserve Backup データベース廃棄ジョブの設定 参照）により、データベース上の該当するメディア情報が削除された場合
- ・ バックアップ ジョブで、[データベースに記録しない]オプションを使用した場合

[ポイント]

リストア ソースは、ツリー、セッション、照会などの単位で指定することができます。またリストア ジョブのソース選択でデータベース情報に依存しない方法を選択する場合(4-2-2 リストア ジョブの作成 参照)は、マージの必要はありません。